

地域とつながり地域を愛する子どもたちの育成

～第2学年「神戸大好き 秘密がいっぱい安房神社」の実践を通して～

1 設定理由

先進技術発展の著しい現代。ドローンでの荷物の配送や人工知能の開発が進むなど、私たちの生活環境は大きく変化している。それに伴って子どもの生活も大きく変化してきている。遊びはスマホや通信ゲーム、将来の夢はユーチューバー。子どもたちの生活と周りにある自然、地域社会とのかかわりは益々希薄になっていく。本校の児童も同様で学校や家以外での遊びは少なく、どこにどんな場所があるのか、そこにはどんな魅力があるのか、ほとんど知らないのが実情である。

これまで本部会では地域の特徴を考え、山や海などの自然や社会環境を教材化し、単元開発を進めてきた。子どもたちが自分たちの故郷を愛し、守っていこうとする気持ちや態度を育てるために、その基盤となる地域への愛着心を、体験を通して育んできた。

そこで、本研究においては、神戸地区の象徴でもある「安房神社」を取り上げ、そこでの活動を通して、地域と子どもたちとの結びつきを深めさせていきたいと考えた。学区の神戸地区には多くの神社がある。「神の戸」と書くこの地区はその名の通り、神社を支えた民が多くいたことに由来する。安房神社は昔から人々の暮らしと大きくかかわり、様々な行事が地域に根付き、人々が大切にしてきた。その安房神社を学習の場として取り上げることで、地域の人々の思いに触れたり、自分たちの生活との結びつきを深めたりできると考えた。また、神社ならではの独特の雰囲気、季節によって大きく異なる自然、たくさんの人々が集まる行事、安房神社はその時々魅力的な姿を見せる。その様子に子どもたちはおとなとは異なった感性で見たり触れたりしながら、面白さや不思議さを発見するだろう。それが神社への興味や関心となり、子どもたちと地域とを強く結びつけることになるだろう。「私の故郷、神戸」「神戸大好き」そんな地域を愛し地域とつながる子どもたちを育てたいと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 安房神社の魅力を感じることができる多様な探検を行えば、神社を身近に感じ、地域に愛着を持つことができるだろう。
- (2) 神社にかかわる地域の人々との交流の場を工夫すれば、自分の思いを伝えたり、人々の思いを知ったりすることができ、地域との結びつきを深めることができるだろう。

3 研究内容

- (1) 第2学年「神戸大好き 秘密がいっぱい安房神社」の指導計画を作成する。
- (2) 授業実践により、仮説を検証・考察する。

4 結 論

○多様な体験を工夫することで、子どもたちは安房神社の魅力をたくさん感じ、地域に愛着の心を持つことができた。

○地域のお年寄りとの交流によって、自分の思いを伝えたり、安房神社を思う地域の人々の心に触れたりすることができ、地域と自分たちとの結びつきを深めることができた。

1. 研究主題

地域とつながり地域を愛する子どもたちの育成

～第2学年 「神戸大好き 秘密がいっぱい安房神社」の実践を通して～

2. 主題設定の理由

情報化社会と言われ久しい。また、最近はドローンでの荷物の配送や人工知能ロボットの開発が進むなど、先進技術の発展も著しいものがある。私たちの日常生活は益々便利になっていく。外へ出る必要もなくなり、どこで暮らそうと同じような生活ができる。私たちが、日々の生活の中でパソコンやスマホなどの情報機器を利用している時間は決して少なくはないだろう。ともすれば、一日中家の中にいてパソコンと向かい合っている、という人も特別ではなくなっているのではないだろうか。

こうした生活は子どもたちにも大きく影響している。遊びと言え、当然のようにスマホや通信ゲーム。何時間もそれに熱中している様子も見聞きする。友達と一緒にいても同じである。将来の夢はユーチューバーといった現代ならではの声も。子どもたちの生活は、学校と家庭、情報機器との間を行き来して終わっていると言っては言い過ぎだろうか。子どもたちの周りにある自然、地域社会とのかかわりは益々希薄になっていく。

本校の児童も同様に、学校や家以外の場所での活動が少なく、どこにどんな場所があるのか、そこにはどんな魅力があるのかは、ほとんど知らない。

地域には、その土地、土地の特徴があり、人々はそれを生かして生活している。そこに、その土地ならではのよさや魅力がある。少子化、高齢化社会による人口減少が進む中ではあるが、それでも将来、自分たちが住む地域を支えていくのは子どもたちなのである。

安房生活科・総合部会では、これまでそれぞれの地域の特徴を考え、山や海などの自然や社会環境を教材化し、単元開発を進めてきた。子どもたちが、自分たちの故郷を愛し、守っていかうとする気持ちや態度を育てるために、その基盤となる地域への愛着の心を生活科・総合的な学習の中で、体験を通し育んできた。

そこで、本研究においては、神戸地区の象徴でもある「安房神社」を取り上げ、そこでの活動を通して、地域と子どもたちとの結びつきを深めさせていきたいと考えた。

本校のある神戸地区には、多くの神社がある。それは、地名からもわかるように、「かんべ」という名は、「神の戸」と書く。その名の通り、神社を支えた民が多くいたことに由来する。昔から、安房神社は人々のくらしと大きくかかわり、神社での様々な行事もそこに根付き、地域の人々が大切にしていることが強く感じられる。その安房神社を学習の場として取り上げることで、地域の人々の思いに触れたり、自分たちとの生活の結びつきを深めたりできると考えた。また神社は、その場ならではの独特の雰囲気と、季節や行事によって全く違った顔（様子）を見せる。子どもたちは、われわれ大人とは違った感性でそれらを見たり、触ったりしながら、面白さや不思議さを発見するだろう。そして、それが神社への興味や関心となり、子どもたちと地域とを強く結びつけることとなるだろう。

「わたしの故郷、神戸」「神戸、大好き」「私たちが神戸の伝統を受け継いでいくんだ」…、そんな地域を愛し地域とつながっていかうとする子どもたちを育てたいと考え、本主題を設定した。

3. 研究の目標

地域とつながり、地域を愛する子どもたちを育成するための手立てを、安房神社探検の教材化を通して明らかにする。

4. 研究の仮説

<仮説1>

安房神社の魅力を感じることができる多様な探検を行えば、地域の象徴である安房神社を身近に感じ、地域に愛着を持つことができるだろう。

神社の様子が異なる時を探検

安房神社では、季節によって様々な行事があり、時には地域内外から、たくさんの人々が集まる。そんな時は、人々の明るい声や足音が聞こえ、にぎわう神社の顔がある。反対に、祭りごとのない時は、人の姿もなく、とても静かで風の音や鳥の声だけが聞こえてくる、そんな神社の顔もある。また、季節によって変化する自然もある。参道に並ぶ桜。境内の大きないちよう。山に囲まれた安房神社は、春夏秋冬と、木々の様子も大きく変わる。そんな色々な変化を感じられる神社へ繰り返し探検に行くことで、子どもたちは、自分のお気に入りを見つけたり、変化の面白さを感じたりしながら探検をすることを楽しむことができるだろう。そして、それは地域への愛着を持つことへつながっていく。

そこで本単元では、静けさと紅葉を感じる秋の探検、お正月のにぎわいを感じる探検、地域の人々が一同に会する冬の節分祭の探検を行う。

神主さんとの探検

1 回めの探検で一人ひとりに関心を持たせる。2 回めの探検では、自分が気になったことについて神主さんに尋ねたり、境内の様子などの話を聞いたりする場を設ける。子どもたちは神社の中の大きな木々や変わった建物などについて、子どもらしい感覚をもって感じた疑問をぶつけるだろう。神主さんには事前をお願いをし、低学年の児童の実態に合わせたお話をしていただく。神主さんと話しながら、境内を見て回ることで、子どもたちは興味を深め、神社との距離を縮めることができるだろう。

地域の象徴であるこの安房神社が自分にとって身近に、そして魅力的に感じられるようになることで、地域への愛着を持つことができるだろう。

<仮説2>

安房神社にかかわる地域の人々との交流の場を工夫すれば、自分の思いを伝えたり、人々の思いを知ったりすることができ、地域との結びつきを深めることができるだろう。

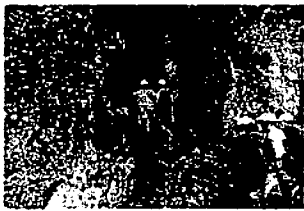
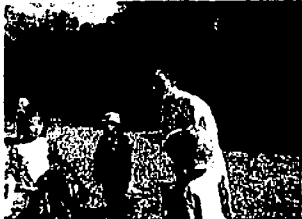
神社にかかわる人々との交流の場として、地域のお年寄りとの「お話し会」を計画する。これは、子どもたちが感じた神社の秘密や「すてき」をお年寄りに伝えたり、お年寄りの地域の神社に対する思いや、子どもの頃の思い出などを話したりしていただく場として設定する。子どもたちは、自分の発見を伝えながらグループで思いを共有し、お年寄りの話を聞くことで、地域の人々も神社を大切にしていることや昔から生活に密着していた存在であることを感じることができると考える。

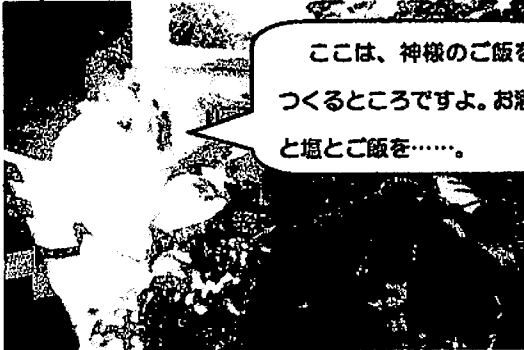
お年寄りとは運動会や昔の遊びでも交流しており、初対面ではない。子どもたちにとっても身近になってきた地域のお年寄りとの「お話し会」は、自分と地域の結びつきも深めていけるものと考えている。

5. 研究内容

- (1) 第2学年「神戸大好き 秘密がいっぱい安房神社」の単元指導計画を作成し実践する。
- (2) 授業実践により、仮説の検証・考察をする。

6. 活動の実際

	主な活動 (○) と児童の様子 (・) 教員の見取り 	教員の支援 (●) 仮説とのかかわり【仮】
一次	安房神社ってどんなところ？ 1 ○安房神社について知っていることを発表し合い探検の計画を立てる。 ・有名なところ。 ・人がたくさん来る。 2 ○安房神社探検に行く。(散策) 探検① ・おおきないちょうの木だなあ。 ・あの穴は何だろう。 ・池はなにかいるかな。 ・太鼓があるよ。 ・建物がたくさんあるな。 ・とっても静かだね。 ・あの白い飾りは何だろう。 	●知っていることを発表し合うことを通して、見たり調べたりしたいことを整理させ探検への意欲を高めさせた。 ●何だろうと気になったものや、すごいなと感じたものをメモさせた。 ●境内を自由に回り、見たり、触ったり、聞いたり五感を使って、散策するようにした。【仮1】
	・神社の人がそうじをしていたね。 ○散策で見つけたものや感想を発表し合う。 ・とっても広かった。中には何があるのかな。 ・川があったよ。何がいるのか気になった。	●何だろう、不思議だなと思うことは、担任や友達と一緒に想像したり、考えたりして、また行きたい、聞いてみたいという意欲を高めた。【仮1】
二次	2 安房神社探検をしよう ○探検計画を立てる。 ・もう一度みたいものや知りたいことをまとめる。 2 ○安房神社探検に行く。探検② ・これは何ですか。 ・いちょうがきれいだね。においがするよ。実が落ちているよ。オスの木とメスの木があるんだって。 	●メモをもとに、①何だろう②見つけたよ③すごいなびっくりの3つに分類し、友だちと話し合った。一緒に話すことで、自分の知りたいことや見てみたいことをはっきりさせ、探検のめあてを持たせた。 ●宮司さんに、低学年の実態を伝え、児童の関心を持った部分や、興味を引くような話をしていただくよう事前をお願いをした。  【仮1】

	 ここには水の神様がいます。 ・水の神様もいるんですか。 ・この水で、元気になるの？	 ここは、神様のご飯をつくる場所ですよ。お酒と塩とご飯を……。 ・え～、神様はお酒をのむんだ。 ・ご飯は全部食べちゃうの？
	神主さんと一緒に境内を回りながら、たくさん話を聞いた。その場で気になったことや話を聞いて不思議に思ったことも、たくさん質問していた。会話の中に驚きがたくさん出ていた。関心がさらに高まった。【仮1】	
三次 1	もっと安房神社を探検しよう ○もっと知りたいことや見たい行事や自然の様子から、今後の探検計画を立てる。 ・神様の木はどうなるのか見に行きたいな。 ・お正月に行ってみたいな。 ・また、いちょうの葉っぱをひろいたいな。 ・お正月の神社に行ってみよう。 ・節分祭に行こう。 ・桜のお祭りがあるよ。 ○お正月の安房神社へ行く。探検③（課外） ・車が渋滞していた。学校が駐車場になっていたよ。よその地域からたくさんの人が来ていたよ。 ・ぼくは夕方にお父さんと自転車でいった。 ・おみくじがたくさん木に結んであった。 1 ○節分祭にいく計画を立てる。 ～節分祭に行こう～ ・去年はたくさん人がいたよ。 ・お菓子をもらった。 ・天狗がいたけど、鬼なのかな。	●カードや児童のつぶやきから、次の探検の計画を立てていった。お正月の探検と桜まつりの探検は、長期休業と重なるので、家庭の都合に合わせ課外で、2月の節分祭は1, 2年全員で探検することとした。【仮1】 ●冬休み中の探検は、朝の会を利用しその時の様子や感じたことを伝え合うようにさせた。 ●前回の探検の時と変わっていたところはなかったか、目を向け比べさせた。【仮1】 ●昨年の節分祭ではお菓子をもらったことの印象が大きかったので、再度様子を思い出し、どんな人が何をしているのか、節分祭は何のためにしているのかなど考えさせ、地域とのつながりを意識させた。【仮1】

2

○安房神社に行く 探検④（節分祭）

- ・たくさんの方がいるね。近所のおばさんも来ている。
- ・いちょうの葉っぱは1枚もないよ。



- ・天狗がいるよ。踊っている。
- ・あのおどり方は鬼じゃなくて神様みたいだ。
- ・中では何をしているのかな。

2

○節分祭を振り返り、感想や発見をカードに書く。



- 天狗がいたことを思い出し、鬼なのか、神様なのか話題になった。探検の目的の一つとし、興味を持たせた。【仮1】

- 豆まきの前に神社へ行き、話題になった天狗や、前回の探検で気になっていた場所など境内の様子に目を向けさせた。【仮1】

自分の発見や気にっていた場所やものを1年生に案内していた。いちょうの葉がないことを残念がっていた。季節と自然の変化に気づいていた。【仮1】



- 地域の人達がたくさん集まってきていたこと、地域の人々も、神から福をいただきにきていることを感想から引き出し、神戸地区みんなの安房神社であることを触れた。

【仮1】

四次

安福神社のことを、お年寄りと話そう。

- 2 ○お年寄りとの「お話会」の計画を立てる。
- ・おじいさんは神様のことを知っているかな。
 - ・数え方を教えてあげよう。
 - ・私は、神様の木のことを教えたい。
 - ・天狗のことを聞いてみよう。

- 1 ○お話会をする。
- ・神様の数え方をしていますか。
- はしらです。



- ・わたしは、神社のいちちょうの木がきれいで好きです。見たことがありますか。
- ・節分祭の天狗は何をしていたのか知っていますか。
- ・あれは、「さるたひこのみこと」といって神様の通る道を案内しているんだよ。

○お話会の感想を書いて、発表する。

- ・お年寄りはたくさんを知っていたよ。また、一緒にはなしたいな。
- ・おじいさんたちは神社の掃除を3回もするんだって。

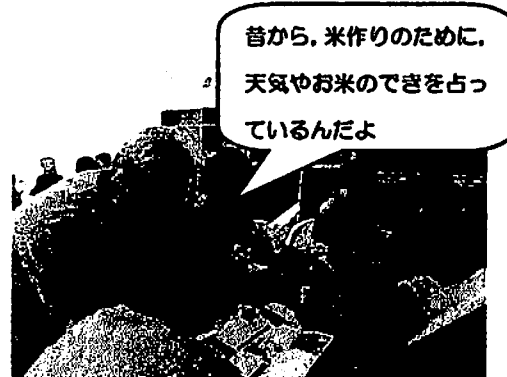
●これまでに交流のある、神戸老人会の方に協力をお願いし「話そう会」が自然な形で進められるようにした。【仮2】

●お年寄りと、事前に打ち合わせをし、児童の話聞いてほしいこと、神社に対する思いや、子どもの頃の神社での思い出など話してほしいことを伝えた。【仮2】

●一人ひとりが自分の話したいことを持ち、参加できるように、お話会メモを用意した。



●グループごとにお年寄りを交え、座談会の形でお話会の場を設けた。



●グループを回り、お年寄りの話の難しそうな部分は、もう一度話していただくなど、子どもとの会話がはずむように、支援していった。

お年寄りの話の中の、占いや掃除の話から、地域の人々の生活と神社とのつながりに気づくことができた。【仮2】

五 次

4

安房神社マップを作ろう

○みんなの発見をマップにまとめる。

- ・わたしのいちおしをのせたいな。
- ・大きくてきれいないちょうの木を教えてあげたいな。メスの木はこっちだったよ。
- ・わたしは、やっぱりあの穴のことをのせたいな。
- ・ぼくは、神様の話を書くよ。
- ・神様の木はこの場所にあったよね。
- ・ここに、水の神様がいるんだ。
- ・まだ、神様のご飯のことがのっていないよ。
- ・ここにいる神様って、どんな姿なんだろう。
- ・きっと、こんな神様だと思うよ。

○参道の桜がさくころに行ってみる。

*今年は、開花が遅く、年度内には行けなかった。

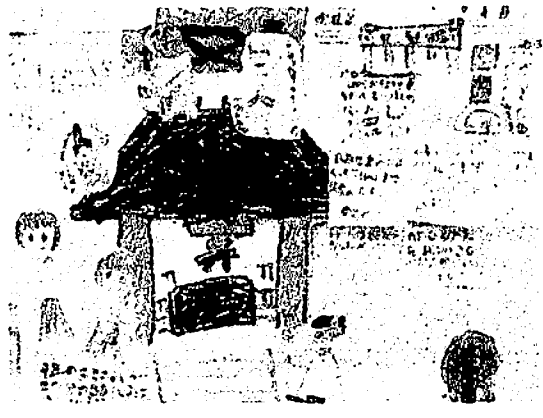
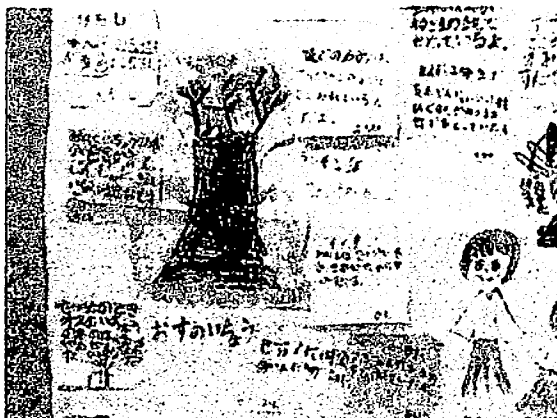
●安房神社の境内案内図を参考にわたしたちの安房神社マップを作ろうと投げかけ、マップのイメージつかませた。

●絵地図の中に、付箋を貼っていき、*すてき…ピンク *わたしのいちおし…緑 *びっくり…青 と色分けし、知らせたいことをわかりやすくした。

●発見したことをみんなのマップにし、自分たちでも見合うことで、それぞれの発見を共有し、たくさんの発見ができたことを自覚させた。

●マップは、1年生に紹介していくことにした。

マップには、子どもたち全員の発見や思いが集まり、たくさんのことをのせようと意欲的に取り組んだ。新しく発見した安房神社のひみつや面白さをマップに表現していた。



7. 考察

(1) 仮説1について

①神社の様子が異なる時を探検したことについて

1 回めの探検は、参拝に訪れる人もほとんどなく、静かな神社だった。人の動きや行事に目を奪われるのではなく、神社そのものの雰囲気や、普段は目を向けることのない境内の隅にも足を運んでいた。まだ青い葉をつけたいちょうは、目の前にどっしりとした姿でそびえ立ち、子どもたちに強い印象を与えた。それが次の探検では、真黄色に染まった葉がたくさん落ち、子どもたちはすぐさま集めて回った。また、銀杏が落ちていることも発見し独特なおいとともに、2本のいちょうが異なることを知ることができた。お正月や節分祭のにぎわいは、子どもたちの気持ちをわくわくさせ、楽しい時間を過ごすことができた。それでも、このにぎわいとは相反するように、すべての葉をなくしたいいちょうを見て、さみしさを感じている子どもたちがいた。

このように、同じ場所であるにもかかわらず、様々な顔を見せる安房神社の魅力を肌で感じている子どもたちの姿を見ることができた。

②神主さんとの探検について

2 回めの探検では、子どもたちの思いに沿って探検を実施した。事前のお願いで、子どもたちの実態と学習のねらいを伝えたことで、それぞれの子どもと話を聞きながら、やさしい言葉で話してくださった。一か所に集まって全員で話を聞くのではなく、境内を一緒に回りながら、子どもたちが「ここはなんですか。」と話の対象を目の前にして神主さんと一緒に探検をしていった。「え～、すごい。」「じゃあ、これは〇〇なんですか。」と驚きや感動、素直なつぶやきの反応がたくさん聞かれた。これは、五感を使って探検をできた成果であろう。

また、神主さんの話は、子どもたちにとって、とても魅力的で不思議な世界へ引き込んだ。「神様は結婚して孫までいる!」「ご飯は1日2回」「全部食べてなくなっちゃうの?」と自分たちと同じような生活をしているかのように感じていたようだ。

この探検で、安房神社との距離をぐっと縮めていったのだと考える。

(2) 仮説2について

①地域の人々との交流の場を持ったことについて

安房神社の“すごさ”や“秘密”を共有することができた。

お年寄りとの「お話会」は「もっと一緒に、安房神社のことを話したい。」という思いにさせた。「たくさんを知っているお年寄りは、昔からずっと安房神社にかかわってきたからなんだ。」ということを感じることができたようである。そんなお年寄りと一緒に過ごすことで、自分も同じように安房神社（地域）とつながっているんだという気持ちを持つことができたと考える。

8. 研究のまとめ

《成果》

- 子どもたちの住む地域にある、古くから人々の暮らしと大きくかかわり、大切に守られてきた安房神社を対象とした探検の教材化を図ることによって、地域を知り、地域とつながり、地域を愛する子どもたちを育てることができた。
- 安房神社で見たり触れたりすることのできる豊かな自然の中で活動することにより、木々や草花、生き物に直接触れ、五感を通して感じ、自然の様子や四季の変化、季節によって変わる行事、生活に気付くことができた。
- 子どもたちが発見した安房神社の“すてき”や“いちおし”“びっくり”などをお年寄りと共有することができた。さらに、お年寄りの話から新しい発見をしたり、安房神社を大切に思う思いに気付いたりすることができた。こうした活動を通して、身近な人々とかかわることの良さや楽しさを感じ、進んで交流しようとする姿を見ることができた。
- 安房神社マップに探検で見つけたことや感じたこと、お年寄りとのお話会で知ったことをまとめることで、自分と地域とのつながりを再認識することができた。また、完成した安房神社マップを振り返りの時間にみんなで見合うことを通して、子ども一人ひとりの気付きが整理され、友達の気付きに共感することができた。
1枚の安房神社マップが「ぼくたち・わたしたちの安房神社」となり、思いが凝縮されたものとなった。

《課題》

- ◆春夏の安房神社を探検できるよう、単元の計画を再考する。
本実践は、秋からのスタートとなった。しかし、安房神社にはまだまだたくさんの顔がある。四季の変化を感じたり、お年寄りだけでなく、様々な地域の人々の思いに触れたりすることができる時期もある。より良い成果を得られる実施計画を考えていきたい。
- ◆神社の教材化にあたっては個人への配慮が必要である。
家庭により、宗教上の配慮が必要となる活動も含まれる。本実践については、地域性から問題となることはなかったが、活動内容やねらいについて家庭と共通認識を持ちながら実践していく必要があるだろう。
- ◆第3学年での総合的な学習への関連を意識した学習を進める。
本校の3年生の総合的な学習の計画に「地域の歴史と伝統」を扱ったものがある。昨年度の3年生は、安房神社や他の地域の神社や寺を調べていた。生活科の本単元では、安房神社を取り上げたが、「わたしの地区の〇〇神社にもすてきなところがありそうだ。」「今年はもっとくわしく安房神社の歴史を調べたい。」というような意欲の高まりや学びのつながりを考えた学習展開をしていくことが必要である。

4月	みんななかよし 2年生【4】 ・ようこそ1年生	
5月	学校たんけん～お気に入りの場所を教えよう～	
6月	ぼくら神戸のたんけんたい【14】	めざせ、野菜作り名人(春夏)【14】 ・苗をうえよう ・大きくなあれ ・おいしくできたよ ・野菜パーティーをしよう
7月	働くみなさん、こんにちは ・駐在所・消防署・郵便局など	
9月	いきもの大好き【18】 ・ムシムシたんけん ・生き物はかせになろう ・動物とふれあおう(アロハガーデン)	
10月		
11月	1, 2年合同	
12月	つくってあそぼう【20】 ・昔の遊びをたのしもう 老人会交流	ぼくら神戸のたんけんたいパート2【21】 神戸大好き 秘密がいっぱい安房神社 ・安房神社をたんけんしよう ・もっとたんけんしよう(節分祭参加) ・安房神社マップをつくろう
1月	・おもちゃを作ろう ・おもちゃ大会をひらこう	
2月		
3月	あしたへ むかって【14】 ～ありがとう 神戸小～ ・できるようになったよ ・ありがとう神戸小 閉校式	

1. 単元名 神戸大好き～秘密がいっぱい安房神社～

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、地域の人々や様々な場所に関心を持ち、かかわりを通して自分とのつながりを深め、地域の良さを感じたり親しみを持ったりすることをねらう地域探検の活動である。これにかかわる指導要領の指導内容は次の通りである。

内容(3) 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや生活することができるようにする。

(5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心し、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。

本校がある神戸地区には多くの神社があり、国の文化財とされるものや様々な神事が今も受け継がれている。昔から、人々の生活とかかわり、根付いていることが感じられる。

神戸とは、神の戸と書くが、その文字の通り、安房神社を支えた民家（封戸）があったことに由来する。安房神社は、日本最古級の由緒ある神社である。正月には、県内外からも大勢の参拝客で溢れる。誕生を祝うお宮参り、七五三や結婚式と人生の節目にはこの安房神社に参拝している地域の人々も少なくないであろう。夏の祭りや安房国司祭も地域を挙げての行事である。本単元では、学校の近くにある、この「安房神社」に目を向け学習活動を展開していく。

わたしたちの生活と神社は、一年を通じて色々な面でつながりを持っている。「お祭りで御神輿をみたよ。」「お正月にお参りに行った。」「1年生の時に節分祭に行ったよ。」と子ども達も、少なからずかかわってきている。本単元では、始めは、神社の散策を通して関心をもったところからスタートし、更にそこにかかわる地域の人々がいることに気づき、その思いに触れさせていく。また、神社の官司さんやそこで働く人々とも繰り返しのかかわる機会を設けることで、神社がより身近なものとなり親しみの気持ちも増していくだろう。

また、この神社の参道には桜並木、境内には池や大きな空に向かって高く伸びる大きないちょうの木、梅檀の木、ご神木の榎の木などがあり、神社の神秘的な雰囲気と共に自然を通して四季の変化も感じることができる。

季節と共に、自分たちのくらしとのつながりに気づき、地域の歴史を大切に守ろうとしている人々の思いを知り、わたしたちもそれらを大切にしていこうとする気持ちを育むことができる単元であると考えられる。

(2) 児童の実態（男子8人 女子17人 計25人）

本学級の児童は、25人中11人が学童保育に入っている。そのため放課後や長期の休業日も学校で友だちと過ごしている子が多い。休日には、友だちと遊ぶこともあるが、家の中でゲームやテレビを見て過ごすことがほとんどで、外で過ごす時間は少ない。入学して一年半、まだ、地域に遊び場となる場所を見つけ、遊ぶことはほとんどないようである。当然、地域の自然に目を向けて遊んだり、自ら地域の人々とかかわったりして過ごすことはまだ少ない。

生活科の授業では一学期に、学校の前の通りに並んで建てられている公共の施設「公民館」「郵便局」「消防分遣所」「駐在所」を探検し、そこで働く人々の様子や地域との結びつきに気付いていった。安房神社についての児童の意識は次の通りである。

	安房神社に行ったことはありますか。それは、どんな時ですか。	どんなところだと感じましたか。
1	お祭り	人気があり、人がいっぱい来る。
2	お参り	いっぱい人がある。
3	お参り	古いお屋敷みたい。川があってきれい。桜の木がきれい。ちょっと古い
4	お祭り	無回答。
5	休みの日	静かなところ。
6	こどもみこし	おみこしがある。
7	お祭り	にぎやかだった。
8	お参り	人気があるところ。
9	お菓子をなげた時（節分祭）	人がいっぱいだから有名な神社だ。
10	大晦日・放課後・フラの発表 お参り	神様がいて、飾りがすごい。
11	遠足	てっぺんがちょっとこわい。
12	子どもみこしをかついだ。節分祭	お菓子をもらえていい。
13	行ったことがない。	
14	お菓子をなげてもらったとき（節分祭）	いい神社で有名だ。
15	未実施	未実施。
16	遠足	お参りをするところで、こいがある。
17	お花見やお参り 節分	手入れがされていてきれい。いろいろな施設があり動物にもやさしい。環境を利用して自然な感じが出ている。
18	未実施	未実施。
19	フラの発表 放課後遊びに行った	
20	七五三 お祭り お父さんのみこしを見た。	みこしのきんぴかの飾りがすごい。
21	節分祭 遠足	広い。山がちょっとこわい。
22	みこしをかつぐとき	人がいっぱいであるところ。
23	休みの日	人がたくさんくる。
24	無回答	無回答。
25	お参り	川がきれい。近くに森がある。

児童は、昨年校外学習で神社の隣にある「野鳥の森」に出かけている。野鳥の森も安房神社の土地であるが、その印象を述べている児童もいるようだ。また、節分祭にも子ども園や1、2年生が参加している。そのため、全員が神社には何度か行ったことがあるのだが、豆まきでお菓子をもらったことの喜びを一番にあげている子もいる。一番多いのは、「人が多く来る、人気があり有名な神社なのだろう」（8人）というものである。境内の様子に目を向けている児童は5人。自分とのかかわりや地域との結びつきには、まだ意識がなく、感じてはいないようである。

(3) 指導観

繰り返しの探検で地域のよさを知る

二年生になり、活動の範囲も家のまわりから少し広がりいろいろなもの・人に目を向けられるようになった。普段、何気なく利用していたものや見過ごしていたものに目を向け、新しいことに気付いていく。安房神社も実際には何度も足を運んでいる児童だが、自分との結びつきは自覚されていない。時期を変え、目的をもって探検を繰り返すことで、岡島宮司さんをはじめ、神社で働く方と挨拶を交わしたり、話を聞いたりと直接会話することも増えていくだろう。また、探検のたびに新しい発見が増え、うれしくなり自慢になっていく。神戸にしかない安房神社とのかかわりを通して、地域のよさを感じ愛着をもてるようになる活動にしていきたい。

体験と表現活動の繰り返しから、気付きを深める

探検の後の振り返りの表現活動を大切にする。

始めは、どんな様子だったか帰り道や教室で感想を述べ合うだろう。また、一人ひとりが発見をカードに記録する中にも気付きがあるだろう。そういった部分を拾い上げ、「どうしてだろうね。」「今度は、変わっているかな。」など、次の活動につながるような声かけをしていく。

次に、グループやクラス全体での振り返りとなる。友だちと発見を話し合うことで、同じ部分に気付いたことに喜びを感じたり、自分の気付かなかった部分を聞くことで驚いたり、今度は自分でも見たいと意欲を持ったりするだろう。友達と同じ部分に気付いていたとしても、感じ方や考えが違ふこともある。このような表現活動（振り返り）の中から、次の活動への意欲やめあてが生まれ、体験につながる。これを繰り返すことで、気付きを深めていくことができるだろう。

最後は、活動を通して、安房神社マップを作る。マップ作りを通して、探検してきたこと、そこで発見したことが、クラスみんなのものとして、共有される。楽しさや発見の喜びが、神社（地域）への愛着につながっていくだろう。友だちと、どんなマップにするか相談する中で、伝えたいことをはっきりさせ、そこにさらに自分たちが気付いたことは何かを自覚できる場となっていくと考える。

3 単元目標

【生活への関心・意欲・態度】

○安房神社の自然や施設、宮司さんや地域の人々と進んでかかわり、もっと知りたいという気持ちを持ち、地域への愛着を深める。

【活動や体験についての思考・判断】

○神社の探検を通して、感じたことやわかったことを地域の人に伝える方法を考えたり、活動を振り返って工夫して表現したりすることができる。

【身近な環境や自分についての気付き】

○地域の人々と、安房神社は自分たちの生活とつながりがあり、深くかかわっていることに気付くことができる。

○境内の自然が、季節によって変化していることに気付くことができる

4 全体計画（21時間扱い）

	主な学習活動	教師の支援・留意点
一次 3	安房神社ってどんなところ？探検① ○散策に行き、気になるところ、すてき、不思議、何だろうを見つける。 ○散策で気になったことを発表し合う。	○何だろうと、気になったものやすごいな、と感じたものをメモする。児童の様子を見ながら会話をし、自然や、建物に目を向けさせていく。 ○探検のマナーを確認する。
二次 5	安房神社を探検しよう 探検② ○探検計画を立てる。（本時） ・もう一度見たいものや知りたいことをまとめる。 ○安房神社探検に行く。 ・演奏していたのは何だろう。 ・おみこしはどこにあるのだろう。 ○わかったことをカードにまとめ、発表し合う。	○メモをもとに、①何だろう②見つけたよ③すごいなびっくりの3つに分類し、自分の知りたいことを明確にする。 ○自分の発見をグループで伝え合い、気づきを広げる。 ○聞きたいことをはっきりと質問させる。 ○事前に、宮司さんをお願いし質問事項を伝えておく。 ○地域の人とかかわっていることに目が向くように行事についてふれていただく。 ○わかったことを発表し合い、共有させる。
三次 6	もっと安房神社を探検しよう 探検③ ○もっと知りたいことや見たい行事、自然の様子から、今後の探検計画を立てる。 ・境内の木々の変化を見たいな。 ・お正月に向けて、どんな準備をしているのかな。 ・節分祭に行こう。 ・桜のお祭りがあるよ。 ○お正月の安房神社に行く。（課外） ○節分祭に行く計画を立てる。 ○節分祭に行く。 ○節分祭の振り返りをする。	○カードや児童のつぶやきから、次の探検の計画を立てる。 ○家族や地域の人、神社に来る人にもインタビューし、思いや生活とのつながりを気付かせていく。 ○前回の探検の時と変化しているところはないか目を向け、比べさせる。 ○家族で行くことがあれば、朝の会を利用し、その時の様子や感じたことを伝え合わせる。
四次 3	安房神社のことを、お年寄りと話そう。 ○お年寄りとの「お話会」の計画を立てる。 ○「お話会」をする。 ○「お話会」の感想を書いて、発表する。	○これまでに交流のある、神戸老人会の方に協力をお願いする。 ○お年寄りと事前に打ち合わせをし、児童の話を聞いてほしいこと、神社に対する思いや、子どものころの思い出など話してほしいことを伝えた。
五次 4	安房神社マップを作ろう ○みんなの発見をマップにまとめる。 ○参道に桜が咲く頃に行く。探検④	○絵地図の中に、知らせたいことを付箋にかいて貼らせる。（すてき・ピンク、いちおし・緑、びっくり・青）

5. 本時の指導

(1) ねらい ・ 前回の探検で気になったものやことを紹介し合いながら、神主さんに話を聞いてみたいことやもう一度みたいものを考え、次の探検の計画を立てることができる。

(2) 展開

時配	学習内容と活動	指導上の留意点(○)と評価(☆)	資 料
3 2	1. 前回の探検を思い出す。 ・ 大きな木がたくさんあった。 ・ 神社の掃除をしている人がいたよ。 ・ 広がった。 ・ 洞窟みたいな穴があった。 2. 本時のめあてを確認する。	○神社の境内の絵地図を示し、どこがどんな様子だったか、境内のどこのことを話しているのか、想起しやすくする。	絵地図大
もう一度見たいものや聞いてみたいことを考えて、次の探検計画を立てよう			
1 4	3. グループで自分の気になったことを発表し合う。 ◆ピンク 見つけたよ。 ・ きれいな落ち葉がたくさんあった。 ・ おみこしを入れる建物があつたよ。 ・ わたしも見たよ。おみこしが入るのを見たいね。 ◆緑 どうしてだろう 何だろう。 ・ 太鼓があつた。何に使うのかな。 ・ 白い蔵は何だろう。 ◆青 すごいな、びっくりしたよ。 ・ 大きな木がたくさんあった。 ・ ぼくも、奥にあつた木がすてきだと思つたよ。	○前時に書いた、自分の発見メモを出しながら、グループのみんながわかるように発表させる。 ○グループにも絵地図を用意し場所を確認しながら話し合う。 ○発表だけでなく、聞きながら感じたことも話すようにさせる。 ○グループをまわり、上手く話せない児童には、どこのことを言っているのか聞き取り、助言する。	絵地図小
1 8	4. 次の探検で、聞いてみたいことやもう一度見たいものを考え、カードに書く。 ・ あの洞窟は何なのか聞いてみよう。 ・ 太鼓は何に使うのか聞いて見たい。 ・ きれいな落ち葉はあるかな。 ・ 神様はどこにいるのか聞いてみよう。 ・ おみこしをみたいな。	○カードをもとに質問を考え、カードに書かせる。どのように聞いたらよいか考えさせ、自分で話せるようにする。 ○見たいものは、お願いが必要なものもあることを伝える。 ○発見カードになくても、聞いてみたいことがあつたら、加えてもよいことにする。 ○グループでの話をもとに、自分の知りたいことをはっきり持たせる。	探検カード
5	5. 神主さんに聞いてみたいことや、もう一度見たくなつたことについて発表する。	☆自分の聞いてみたいことや見たいものをもつことができたか。(カード・発表)	
3	6. 次回の探検の予告を聞き、めあてと意欲を持つ。	○次回の探検の予定を知らせる。	

～安房神社に対する発見や思い 個々の変容～

実 践 前			実 践 後
	行ったことがあるか	安房神社のイメージや知っていること	探検やお話会後の子どもたちの発見
1	お祭り	人気があり、人がいっぱい来る。	階段を上って本殿の前の木がコメを作る木だと聞いた。そんな木があるんだとびっくりした。節分祭にはどうしてあんなに人が来るんだろう。お参りをするところだと思っていたら豆まきもするところだった。いちょうのでっかい木がきれいで好き。安房神社の木は百年たっても切ってはダメ。罰が当たるし、神様を切るのと同じ。
2	お参り	いっぱい人がいる。	お米を作る木があり、すごいと思った。そんな木があるんだ。ここに神様がすんでいる。秋はいちょうの実ができる。冬は木に葉っぱがない。狛犬が2ひきいる。安房神社の木は切ってはいけない。
3	お参り	古いお屋敷みたい。川があってきれい。桜の木がきれい。ちょっと古い。	神様は1柱、2柱と数える。戦争で使った洞穴がある。苔が生えていて滑りそう。なぜ安房神社で節分祭をするようになったのだろう。狛犬は神様を守っている。神様を守っている人がいっぱいいると知ってびっくりした。神様の木は自然のまま。神様の木は大きい。一軒ともう一軒の半分ぐらい高い。
4	お祭り	無回答。	防空壕の形はハート。かえでの木の葉っぱはきれいだけど少ない。お守りはいいことがある。木が4, 5本合体している。1本の木だと教えてもらい勉強になった。種類もわかった。節分祭はいつもより人が多い。いつもはシーンとしているのに、すごくにぎわっていた。
5	休みの日	静かなところ。	正月や節分には天狗が踊る。神様のほうにお辞儀をしていた。たぶん節分に備えてのお辞儀だと思う。太鼓や笛を演奏して、たくさんの人が見ていた。いちょうの木が気に入った。いちょうの葉っぱがきれいに色づいている。
6	お祭り	おみこしがある。	水の神様のあるところはとっても暗い。神社ではどうして手を合わせるんだろう。
7	お祭り	にぎやかだった。	防空壕にはお金をのせている。お正月や節分はたくさんの人が来るのでびっくりした。いちょうの木は前と違って葉っぱがなかった。豆まきの前に天狗がおどっている。休憩所にはみんなの習字が飾ってある。
8	お参り	人気があるところ。	神様は柱と数える。神様の水が流れている。防空壕は冷たい。節分祭の天狗は何をしているんだろう。桜の木が左右にずっと並んでいる。春はたくさんの人が桜を見に来る。

9	お菓子をなげた時	人がいっぱいだから有名な神社だ。	戦争の防空壕を発見した。大きくて空気が冷たかった。天狗はさるたひこのみことという。神様の前で踊る。節分祭は4年生の〇〇ちゃん巫女さん。神様の木は百年生きている。秋と違っていちょうの葉っぱがなくなっていた。
10	大晦日・放課後・フラの発表お参り	神様がいて、飾りがすごい	神様数え方は「はしら」。水の神様のところに書いてある。大きい神様のいるところは太鼓や鏡がある。神様は結婚すると聞いてびっくりした。私のお父さんとお母さんも結婚して私を生んでくれたから、神様も子どもを大事に育てているんだ。天狗は神様の道案内。神様の木は切ると罰があたる。ものづくりの神様。節分祭の時はいちょうの木は実も葉っぱも一つもない。
11	遠足	てっぺんがちょっとこわい。(神社の隣の山)	おじいさんたちは掃除を3回。神様のごはんはお米とお酒、塩。神様は姿を現さないからすごい。節分祭はいちょうの木の葉っぱがなくて悲しかった。天狗はさるたひこのみこと、道案内をする。
12	子どもみこしをかついだ。節分祭	お菓子をもらえていい。	洞窟は戦争でかくれるところだった。神様ははしらと数える。大きいいちょうの木があって300歳ってことがすごいと思った。安房神社に行ったらたくさんのことが知れてよかった。水の神様の水を飲むと元気がでるとおじいさんから聞いた。すごいと思った。
13	行ったことがない。		神様のごはんは塩と酒と米なんてびっくり。数え方は1柱2柱。秋はいちょうが黄色く染まる。節分祭の時は葉っぱがなくてちょっと寂しい。天狗がおどっていて不思議。神様の木は何百年も生きている。証明されている。
14	お菓子を投げてもらった。	いい神社で有名だ。	大太鼓はお祭りに使う。神様が通るときに演奏する。いちょうは秋に黄色くなる。休憩所があってみんなが休めていい。
15	未実施	未実施。	池があってこいが気に入っている。入口の桜の木がきれい。たくさん広がっている。桜やいちょうやもみじもあってすごくきれいな神社。
16	遠足	お参りをするところで、こいがいる。	神様は結婚する。休憩所でお茶が飲める。こいがお気に入り。
17	お花見やお参り 節分	手入れがされていてきれい。いろいろな施設があり動物にもやさしい。環境を利用して自然な感じが出ている。	いちょうの木は秋に色を変えて葉を落とす。神様の木は何百年も生きている。大きい。なぜ、安房神社で節分を迎えることになったのだろう。いちょうや神様、狛犬、お参りの話をおじいさんとした。安房神社の魅力が知れた。
18	未実施	未実施。	こいがすてき。神様も住んでいて、神様の木もあって、池もあって神社って色々楽しい。上の宮、下の宮がある。
19	フラの発表		大きな穴がある。神様の数え方は「はしら」。前はいちょう葉っぱがいっぱいあったのに、節分ではなくなっていた。なんで

	放課後		かなあと思った。
20	七五三 祭り	みこしのきんぴかの 飾りがすごい。	いちょうの木にオス、メスがあるのを初めて知った。神様は結婚して子どもを育てている。女の神様は、小塚大師にいるときいてびっくりした。神輿はきらきらして目がまぶしい。
21	節分祭 遠足	広い。山がちょっとこ わい。	神様のごはんはごはんとお酒。365日毎日必ずあげる。今から1200年前にできた。神様はもっと古く2700年前に来た。すごーく古い神社だと分かった。神様の木は自然に育った。雌のいちょうは銀杏が落ちて、くさい。入口での手の洗い方…。節分祭はいちょうに葉っぱがなくなっていてなんか寂しかった。 天狗は神様か鬼か知りたい。天狗は神様をご案内する役。踊りは悪魔を追い払う踊り。安房神社では占いもする。
22	みこし をかつ ぐとき	人がいっぱいで有名 なところ。	節分に天狗が踊る。魚クンもいて不思議。天狗は神様の道案内をしている。
23	休みの 日	人がたくさんくる。	神様の水を飲むと賢くなる。水の神様がいるなんて思わなかった。神様の水は山から流れている。ご飯は塩、米、お酒だったなんてびっくり。天狗は鬼だと思っていたけど、何かを追い払っているように見えた。鬼ではなく優しいほうだと思った。神様の名前は天（アマ）が最初について命（ミコト）が最後につくみたい。
24	無回答	無回答。	
25	お参り	川がきれい。近くに森 がある。	いちょうの木は500年たっていてすごい。それなのに全然汚れていない。葉っぱがとてもきれいで大きくびっくりした。節分祭はいつもと違いこんなに人がいるんだと不思議に思った。静かなところで落ち着く。いろいろな色のこいがある。神様の木は何百年も生きている。ものすごく大きい。神様は何をするんだろうと思ったら、みんなを見守るんだと教わった。

安房神社に対する気づき 全体の変容

(安房神社マップからの見取り)

《探検前》

たくさんの人が来る。5
有名 3
飾りがすごい 2
人気がある。2
おまいりするところ
静か
にぎやか
神様がいる
古いおやしきみたい
川があつてきれい2
こいがある
桜の木がきれい
お菓子がもらえる
手入れがされていてきれい2
自然な感じ
広い
山が少しこわい
みこしの飾りがきんぴか

実践前の神社に対しての印象は、
内容から数にすると18種類だった。
実践後のマップに書かれたものから
取り出した内容は、38種類となり
倍以上に増えている。

《探検後》

いちょうの木がきれい。気に入った。 2
秋はいちょうの実ができる。くさいにおいがする。
2
秋に黄色く染まる。 3
冬は葉っぱがない。
かえでの葉っぱはきれいだけど少ない。
4, 5本合体している木がある。
桜の木が並んでいるきれい。2
春は桜を見にたくさん人が来る。
狛犬が2ひき。
神様を守っている。
神様の数え方は「はしら」 2
神様のご飯は塩 酒 ごはん 2
神様は姿を現さない。
神様は結婚する。
神様は子どももいる。
神様を守っている人がいっぱいいる。
神様の木は自然のまま。 2
神様の木をきると罰が当たる。
神様の木は何百年も生きている。証明されている。4
神様の木は大きい。 3
神様の水のあるところは暗い。
神様の水を飲むと元気が出る。
洞窟は戦争で隠れるところだった。
防空壕の形はハート。
防空壕はお金をのせている。
防空壕は冷たい。
お守りはいいことがある。
お正月、節分は天狗が踊る。3
天狗はさるたひこのみことという。
天狗は神様の道案内をしている。
お正月や節分はたくさんの人が来る。
休憩所には、みんなの習字がはってある。
休憩所があつてみんなが休めるからいい。
お茶が飲める。
おじいさんたちがそうじを1年に3回する。
池の鯉が気に入った。3
大きな穴がある。
みこしはキラキラしている。まぶしい。
静かなところで落ちつく。

安房神社と神様について

安房神社は神様が
いるところ



狢犬2ひきが神様を守っている。
神様の数え方は「はしら」 2
神様のご飯は塩 酒 ごはん。 2
神様は姿を現さない。
神様は結婚する。
神様は子どももいる
神様を守っている人がいっぱいいる。
神様の木は自然のまま。 2
神様の木を伐ると罰が当たる。
神様の木は何百年も生きている。 証明されている。 4
神様の木は大きい。 3
神様の水のあるところは暗い。
神様の水を飲むと元気が出る。

神社の自然について

自然な感じ
桜の木がきれい
山がこわい



いちょうの木がきれい。 2
秋はいちょうの実ができる。 くさいにおいがする。 2
秋に黄色く染まる。 3
冬は葉っぱがない。
かえでの葉っぱはきれいだけど少ない。
4, 5本合体している木がある。
桜の木が並んでいるきれい。 2
春は桜を見にたくさん人が来る。
池のこいが気に入った。 3
大きな穴がある。

環境について

いろいろな施設がある
飾りがすごい
手入れがされていてきれい



洞窟は戦争で隠れるところだった。
防空壕の形はハート。
防空壕はお金をのせている。
防空壕は冷たい。
お守りは持っているといいことがある。
休憩所には、みんなの習字がはってある。
休憩所があってみんなが休める お茶が飲める。

節分について

お菓子がもら
える
たくさんの人
が来る



お正月や節分はたくさんの人がある。
お正月、節分は天狗が踊る。 3
天狗はさるたひこのみことという。
天狗は神様の道案内をしている。
4年生の〇〇ちゃんが巫女さんをしていた。

神主さんから話を聞き、心が動かされた表れ

ITALIA - 5

あぢんとくへん

11月 2日 (火)



わたしはあわじんしよてい
ばんのえのとこにでかい木
があつてそこでかんぬしん
があの木はこゑをつくる木と
いふていました。すごいといふ
わけが、そんな木があるんだと
思ひました。

この文を3本、1本

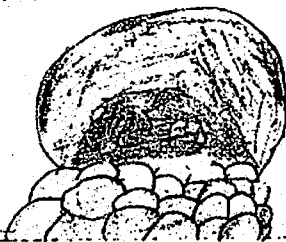
1510. あわじに1=17.

式心全、利子可也、

アムステルダム - ド

高野聖人(2) 75人1人

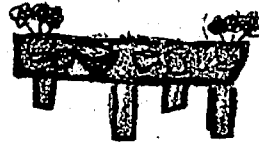
11月 22日 火曜

[illegible]~~7200人の12.17人+27311人
4943018533人+27311人~~

アムステルダム - ト

おわじん じゃたんけん

八月二十二日



わたしはいつも人して、いないけとりました。
かみさまのたて髪 かこは、とあやけとりました。
265日かならずや、てゐる、と聞きました。
た。1日に2回あげてゐるとりました。
車月と夜にあげるとりました。
あわじ人じ、は今から100年前にでたとい
ました。かみさまはそれよりあやうて200年
前にでたといふことがわかりました。
すごくふるいといふたと思ひました。

1-2-1835-178 2488 12-11-17-24

丁巳年七月一日

あつた。ふたつ、人ひん

11月22日

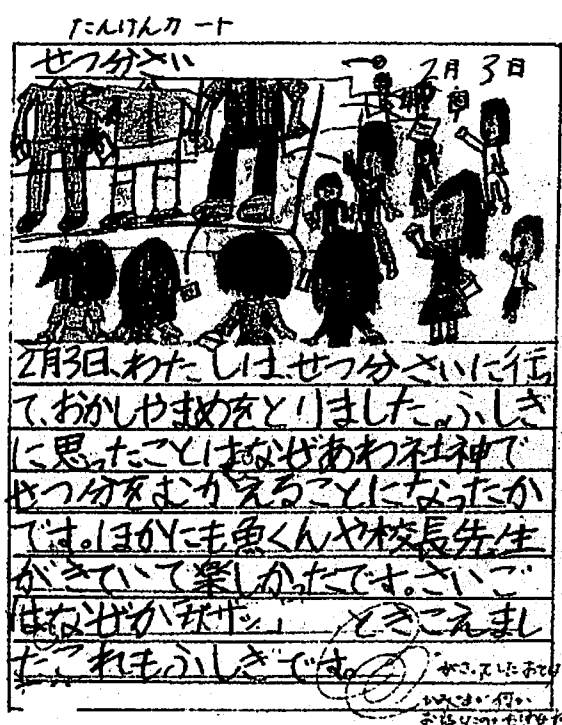
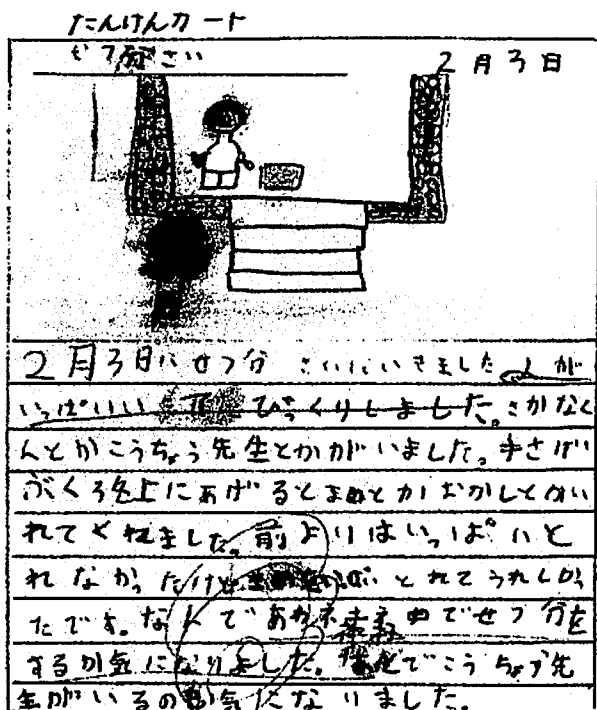
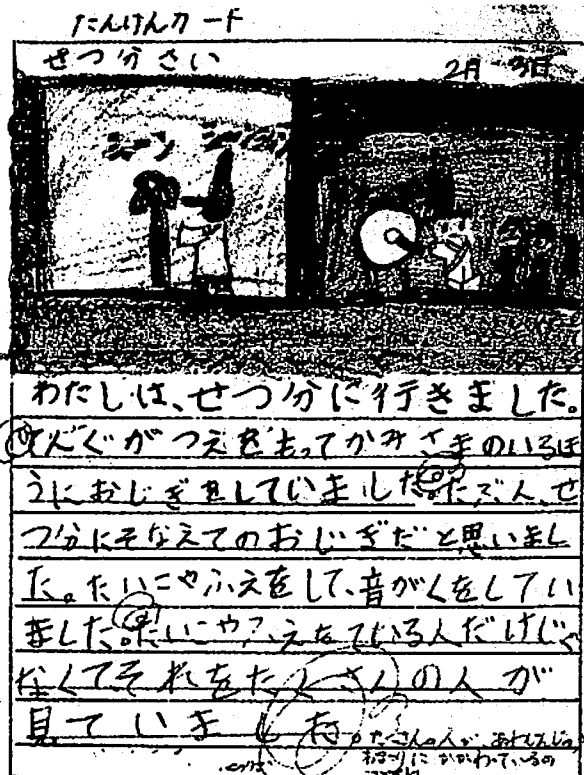


お友だちのしつもんで「かみさま
けいこんさんですか。」と聞いてい
ました。そして「おあしんしゃ」の人
が「はい、そうです。」と言ったのでわ
たしはびっくりしてしまいました。
わたしはお父さんとお母さん
に「わたしをうんでくれた
からかみさまさんにもおあいそ
でしてあげてください。」とお願いしました。

かみさまも、わににちとおなじところがあるてすねおとす。

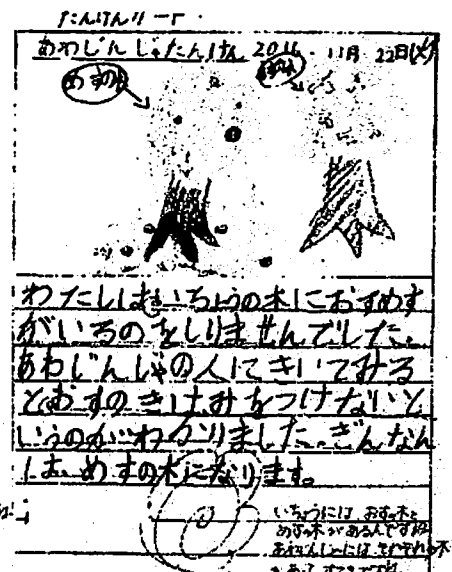
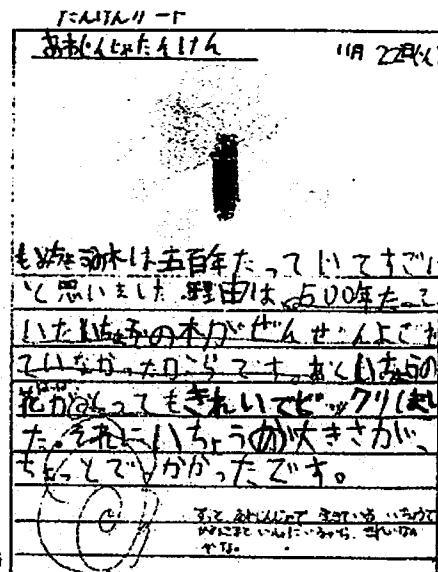
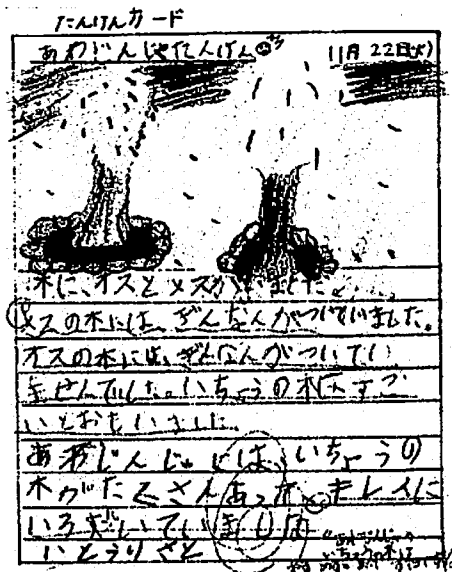
神主さんの話はどれも初めて聞くことばかりで、驚きと発見がたくさんあったことがわかる。特に、神様の食事や結婚の話は、神様が自分たちと同じように生活しているかのような不思議さに、興味を惹かれていた。

いつもと異なる神社の様子を味わった表れ

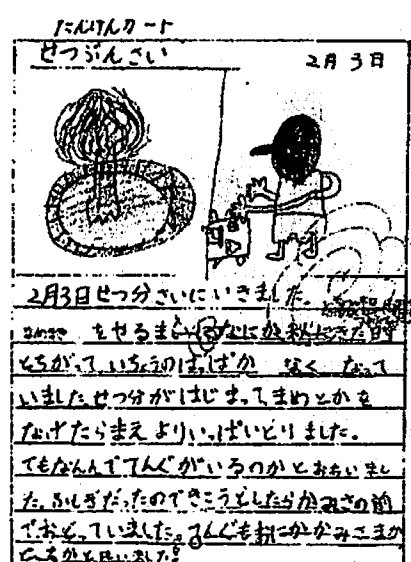
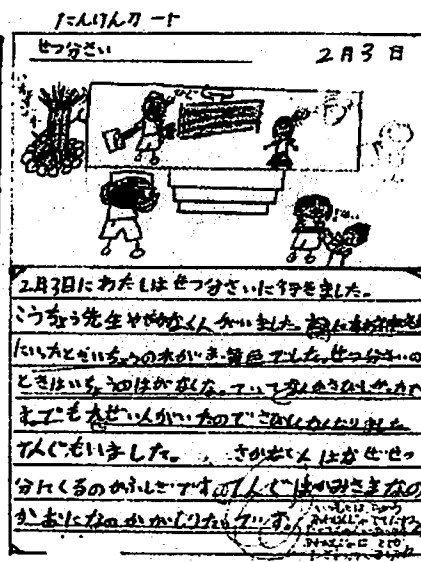
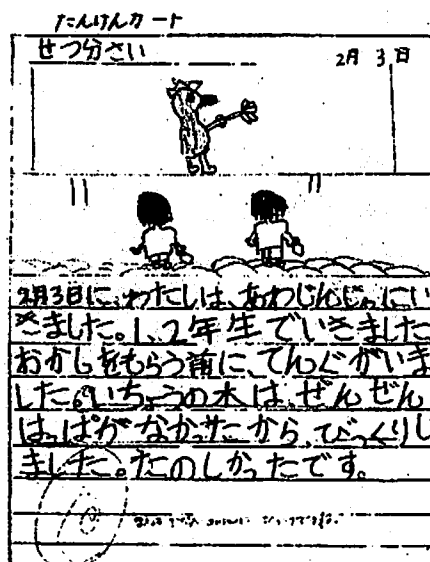


これまでの探検時とは違い、地域の人々がたくさん集まっていることや、本殿での踊りや雅楽の演奏に驚きながら、様子の違いに気づいていることがわかる。そして、地域の人たちと一緒に、節分祭を楽しんでいた。地域みんなが、安房神社の節分祭に楽しく参加していることに気付いていた。

季節の様子や変化を感じ取っていた表れ



11月は、いちょうの木が黄色く色づき、きれいな落ち葉がたくさんあることに気付いている。さらに、銀杏が落ちている木とそうでない木があることに気づき、雄の木と雌の木があることを発見した。



2月の節分祭では、お祭りの様子だけでなく、11月に来た時とは違う、いちょうの木の様子を発見し、季節の変化を感じていることがわかる。たくさんの人の賑わいと、いちょうの木のさみしさを対比して感じ取っている。

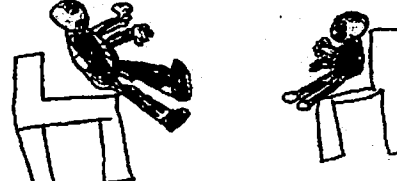
地域の人が安房神社を大切に思っていることを感じ取った表れ

1-んけんカード
あわね神社のいしに話そう会 2月21日



きのうあわね神社のはなをのびちゃんに
しました。おじいちゃんもきいてくれました。
いろいろういじんさんとお話をしました。
わたしは、ういじんさんでういじんはかみこさんで
すかると言ったら、ういじんはかみこさんで
ういじんはかみこさんでういじんはかみこさんで
ういじんはかみこさんでういじんはかみこさんで
ういじんはかみこさんでういじんはかみこさんで
ういじんはかみこさんでういじんはかみこさんで
ういじんはかみこさんでういじんはかみこさんで

1-んけんカード
あわね神社のいしに話そう会 2月21日



ほくは、おじいちゃんとおお神社の話
をしました。それでほくは、おじいちゃん、何を
するんですか。と聞いたら、おじいちゃんが
おじいちゃんを見せる人がよ、と言いました。
ほくは、おじいちゃんはおお神社の
ことを全部、知っていると言いました。そして
くは、おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん

1-んけんカード
あわね神社のいしに話そう会 2月21日



今日ういじんさんのおじいちゃんたちと
あわね神社のことを話しました。
本が入ってきてびっくりした。だけ
とあわね神社の本はきくとバチかあたる
とよく教えてくれました。また
おじいちゃんたちにおじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん

1-んけんカード
いしに話そう会 2月21日



今日わたしはおじいちゃんたちと
あわね神社の話をしました。
おじいちゃんの本やかみこさんの話を
しました。ほかにういじんさんの話を
もたれおじいちゃんの話もしました。
あわね神社のういじんさん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん

1-んけんカード
あわね神社のいしに話そう会 2月21日



そのうあわね神社のおじいちゃんたち、いしに
話そう会をやりました。おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん
おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん

お年寄りとの「お話し会」では、おじいさんたちが安房神社のことをとてもよく知っていたことに驚いている。お年寄りは、ずっと安房神社とかかわってきたから知っているのだということを後に話していた。

また、安房神社の秘密という共通の話題でお年寄りと話したこの会をとても楽しんでいたり、安房神社の魅力を再発見していたことがわかる。そして「また、おじいさんたちに会ったらいっぱい安房神社のことを話したい。」という思いから安房神社（地域）とつながりたいという気持ちも見取ることができる。

あわ神社マップ

